

NO. 312

じゅんあい

平成25（2013）年3月1日

異邦人の救い



二千年前のユダヤの人々は、神よりの救いすくは選民せんみんである自分達のみ
に与えられると考えていた。それ故、異邦人いほうじんと語ったり交わったりなどは
まことに汚らわしい神の御旨みむねに反するものとされてきた。

「サマリアの女が水をくみに来た。イエスは、『水を飲ませてください』と言われた。弟子たちは食べ物を買うために町に行っていた。すると、サマリアの女は、『ユダヤ人のあなたがサマリアの女のわたしに、どうして水を飲ませてほしいと頼むのですか』と言った。ユダヤ人はサマリア人とは交際しないからである。」(ヨハネ 4:7~9) とあるが如しである。

ペテロは神よりの幻^{まぼろし}を見せられ、異邦人のコルネリウスの家へ^{みちび}導かれてゆく。そして御言葉を語っているうちに、自分達が受けた同じ聖霊^{せいれい}が彼らに注^{そそ}がれるのを見て驚^{おどろ}くのである。

「そこで、ペトロは口を開きこう言った。『神は人を分け隔^{へだ}てなさないことが、よく分かりました。どんな国の人でも、神を畏れて正しいことを行う人は、神に受け入れられるのです。』」(使徒言行録 10:34、35)

「ペトロがこれらのことをなおも話し続けていると、御言葉を聞いている一同の上に聖霊^{せいれい}が降^{くだ}った。割礼を受けている信者で、ペトロと一緒に来た人は皆、聖霊^{せいれい}の賜物^{たまもの}が異邦人の上にも注^{そそ}がれるのを見て、大いに驚いた。異邦人が異言^{いげん}を話し、また神を賛美^{さんび}しているのを、聞いたからである。

そこでペトロは、『わたしたちと同様に聖霊^{せいれい}を受けたこの人たちが、水で洗^{バプテスマ}礼を受けるのを、いったいだれが妨^{さまた}げることができますか』と言った。そして、イエス・キリストの名によって洗^{バプテスマ}礼を受けるようにと、その人たちに命^{めい}じた。それから、コルネリウスたちは、ペトロになお数日滞在^{たいざい}するようにと願った。」(使徒言行録 10:44~48)

「さて、使徒たちとユダヤにいる兄弟たちは、異邦人も神の言葉を受け入れたことを耳にした。ペトロがエルサレム^{のぼ}に上って来たとき、割礼を受けている者たちは彼を非難^{かつれい}して、『あなたは割礼を受けていない者たちのところへ行き、一緒に食事をした』と言った。

そこで、ペトロは事の次第^{しだい}を順序^{じゅんじょ}正しく説明し始めた。『わたしがヤッ

ファの町にいて祈っていると、我われを忘れたようになってまぼろし幻を見ました。大きな布のような入れ物が、四隅すみでつるされて、天からわたしのところまで下おりて来たのです。その中をよく見ると、地上のけもの獣、野獣、這うもの、空の鳥などが入っていました。そして、“ペトロよ、身を起こし、ほふ屠ほって食べなさい”と言う声を聞きましたが、わたしは言いました。“主よ、とんでもないことです。清くない物、汚れた物は口にすることがありません。”すると、“神が清めた物を、清くないなどと、あなたは言うてはならない”と、再び天から声が返って来ました。

こういうことが三度あって、また全部の物が天に引き上げられてしまいました。そのとき、カイサリアからわたしのところに差し向けられた三人の人が、わたしたちのいた家に到着しました。

すると、“霊”がわたしに、“ためらわないで一緒に行きなさい”と言われました。ここにいる六人の兄弟も一緒に来て、わたしたちはその人の家に入ったのです。彼は、自分の家に天使が立たっているのを見たこと、また、その天使が、こう告つげたことを話してくれました。“ヤッファに人を送って、ペトロと呼ばれるシモンを招まねきなさい。あなたと家族の者すべてを救う言葉をあなたに話してくれる。”わたしが話かしだすと、聖霊が最初わたしたちの上くに降くだったように、彼らの上にも降くだったのです。



そのとき、わたしは、“ヨハネは水で洗バプテスマ礼さすを受けたが、あなたがたは聖霊にとって洗バプテスマ礼さすを受ける”と言っておられた主の言葉を思い出しました。こうして、主イエス・キリストを信じるようになったわたしたちに与えてくださったのと同じ賜物たまものを、神が彼らにもお与えになったのなら、わたしのような者が、神がそうなさるのをどうして妨さまたげることができたでしょうか。』

この言葉を聞いて人々は静まり、『それでは、神は異邦人をも悔くい改あらためさせ、命を与えてくださったのだ』と言って、神を賛美した。』

(使徒言行録 11 : 1～18)

異邦人の救いという画期的な出来事についてエルサレムにいる使徒達はその解釈に悩む —— そしてエルサレム会議が開かれるのであった。

エルサレム会議の様子は次のようであった。

「そこで、使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。議論を重ねた後、ペトロが立って彼らに言った。『兄弟たち、ご存じのとおり、ずっと以前に、神はあなたがたの間でわたしをお選びになりました。それは、異邦人が、わたしの口から福音の言葉を聞いて信じるようになるためです。

人の心をお見通しになる神は、わたしたちに与えてくださったように異邦人にも聖霊を与えて、彼らをも受け入れられたことを証明なされたのです。また、彼らの心を信仰によって清め、わたしたちと彼らとの間に何の差別をもなさいませんでした。

それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです。』すると全会衆は静かになり、バルナバとパウロが、自分たちを通して神が異邦人の間で行われた、あらゆるしるしと不思議な業について話すのを聞いていた。

二人が話を終わると、ヤコブが答えた。『兄弟たち聞いてください。神が初めに心を配られ、異邦人の中から御自分の名を信じる民を選び出そうとなされた次第については、シメオンが話してくれました。預言者たちの言ったことも、これと一致しています。次のように書いてあるとおりです。“その後、わたしは戻って来て、倒れたダビデの幕屋を立て直す。

その破壊された所を建て直して、元どおりにする。それは、人々のうちの残った者や、わたしの名で呼ばれる異邦人が皆、主を求めようになるためだ。”昔から知られていたことを行う主は、こう言われる。』それで、わたしはこう判断します。神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。」

(使徒言行録 15 : 6~19)

やがてパウロを中心に神の救いのバトンは各地の異邦人へともたらされる。

「その夜、パウロは幻を見た。その中で一人のマケドニア人が立って、『マケドニア州に渡って来て、わたしたちを助けてください』と言ってパウロに願った。パウロがこの幻を見たとき、わたしたちはすぐにマケドニアへ向けて出発することにした。

マケドニア人に福音を告げ知らせるために、神がわたしたちを召されているのだと、確信するに至ったからである。

わたしたちはトロアスから船出してサモトラケ島に直航し、翌日ネアポリスの港に着き、そこから、マケドニア州第一区の都市で、ローマの植民都市であるフィリピに行った。そして、この町に数日間滞在した。安息日に町の門を出て、祈りの場所があると思われる川岸に行った。そして、わたしたちもそこに座って、集まっていた婦人たちに話をした。ティアティア市出身の紫布を商う人で、神をあ



がめるリディアという婦人も話を聞いていたが、主が彼女の心を開かれたので、彼女はパウロの話に注意深く聞いた。そして、彼女も家族の者も洗礼を受けたが、そのとき、『私が主を信じる者だと思いでしたら、どうぞ、私の家に来てお泊りください』と言ってわたしたちを招待し、無理に承知させた。」

(使徒言行録 16 : 9~15)

幻を見、それに導かれてゆくパウロ。フィリピの町におけるリディアとの出会い、そしてリディアとその家族との救い……。こうしてやがて全ヨーロッパ伝道の起点が与えられたのであった。

「真夜中ごろ、パウロとシラスが賛美の歌をうたって神に祈っていると、ほかの囚人たちはこれに聞き入っていた。突然、大地震が起こり、牢の土台が揺れ動いた。たちまち牢の戸がみな開き、すべての囚人の鎖

も外れてしまった。

目を覚ました看守は、牢の戸が開いているのを見て、囚人が逃げってしまったと思い込み、剣を抜いて自殺しようとした。パウロは大声で叫んだ。『自害してはいけない。わたしたちは皆ここにいる。』看守は、明かりを持って来させて牢の中に飛び込み、パウロとシラスの前に震えながらひれ伏し、二人を外に連れ出して言った。『先生方、救われるためにはどうすべきでしょうか。』二人は言った。『主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族も救われます。』そして、看守とその家の人たち全部に主の言葉を語った。

まだ真夜中であったが、看守は二人を連れて行って打ち傷を洗ってやり、自分も家族の者も皆すぐに洗礼を受けた。この後、二人を自分の家に案内して食事を出し、神を信じる者になったことを家族ともども喜んだ。」

(使徒言行録 16 : 25~34)

パウロの真実の願いは彼の同胞である選民イスラエルの救いにあった。しかし、なぜか水がせき止められるが如く、ユダヤ人はこれを拒絶し救いの流れはユダヤ人にとって途切れてゆく。

「シラスとテモテがマケドニア州からやって来ると、パウロは御言葉を語ることに専念し、ユダヤ人に対してメシアはイエスであると力強く証した。

しかし、彼らが反抗し、口汚くののしったので、パウロは服の塵を振り払って言った。『あなたたちの血は、あなたたちの頭に降りかかれ。わたしには責任がない。今後、わたしは異邦人の方へ行く。』

(使徒言行録 18 : 5、6)

さまざまな反発や脅し悪口雑言の中でパウロの心は固まってゆく。「今後、わたしは異邦人の方へ行く」と。

「ある夜のこと、主は幻の中でパウロにこう言われた。『恐れるな。語り続けよ。黙っているな。わたしがあなたと共にいる。だから、あなた

を襲^{おそ}って危害^{きがい}を加える者はない。この町には、わたしの民が大勢^{おおぜい}いるからだ。』
(使徒言行録 18 : 9、10)

そして異邦人へと伝道の道を行くパウロ。

「神は、パウロの手を通して目覚^{めざ}ましい奇跡^{きせき}を行われた。彼が身に着けていた手ぬぐい^{まえか}や前掛け^あを持って行って病人に当てると、病気はいやされ、悪霊どもも出て行くほどであった。」(使徒言行録 19 : 11、12)

主もまた異邦人のために改^{あらた}めて彼パウロを派遣^{はけん}することを次のように示されるのであった。

「さて、わたしはエルサレムに帰って来て、神殿で祈っていたとき、我を忘れた状態になり、主にお会いしたのです。主は言われました。『急げ。すぐエルサレムから出て行け。わたしについてあなたが証^{あか}しすることを、人々が受け入れないからである。』

わたしは申しました。『主よ、わたしが会堂^{かいどう}から会堂^{まわ}へと回って、あなたを信じる者を投獄^{とうごく}したり、鞭^{むち}で打ちたたいたりしていたことを、この人々は知っています。また、あなたの証人^{しょうにん}ステファノの血が流されたとき、わたしもその場にいてそれに賛成し、彼を殺す者たちの上着の番もしたのです。』

すると、主は言われました。『行け。わたしがあなたを遠く異邦人のために遣^{つか}わすのだ。』
(使徒言行録 22 : 17~21)

あれから2000年という年月が過ぎ今日^{いた}に至っている。
パウロを通しての異邦人伝道がなかったならば私達の救いはなかったかも知れない。しかし、やがてこの福音^{せんみん}は選民イスラエルに帰される時が来る。

その日その時がいつ来てもよいようにパウロのように主に祈り、主に仕え、最後の異邦人の救いの実現を祈りつつ選民イスラエルの回復をも祈りゆく者とならなければならない。

「兄弟たち、自分を賢い者とうぬぼれないように、次のような秘められた計画をぜひ知ってもらいたい。

すなわち、一部のイスラエル人がかたくなになっただのは、異邦人全体が救いに達するまでであり、こうして全イスラエルが救われるということです。次のように書いてあるとおりで。

『救う方がシオンから来て、ヤコブから不信心を遠ざける。これこそ、わたしが、彼らの罪を取り除くときに、彼らと結ぶわたしの契約である。』福音について言えば、イスラエル人は、あなたがたのために神に敵対していますが、神の選びについて言えば、先祖たちのお蔭で神に愛されています。

神の賜物と招きとは取り消されないものなのです。

あなたがたは、かつては神に不従順でしたが、今は彼らの不従順によって憐れみを受けています。

それと同じように、彼らも、今はあなたがたが受けた憐れみによって不従順になっていますが、それは、彼ら自身も今憐れみを受けるためなのです。

神はすべての人を不従順の状態に閉じ込められましたが、それは、すべての人を憐れむためだったのです。

ああ、神の富と知恵と知識のなんと深いことか。だれが、神の定めを極め尽くし、神の道を理解し尽くせよう。」

(ローマ 11:25~33)

殉愛キリスト教会

牧師：山 縣 實

〒920-0814 石川県金沢市鳴和町タ 210 Tel・Fax 076-251-2247

E-mail : jun-i-yamagata@ishikawa.email.ne.jp

URL : <http://junaichristchurch.wordpress.com/>